

音楽現代

The Challenge

Vol. 4

No. 1

January

クラシック音楽誌

1

特集 指揮者の現在

2012年指揮者感動体験

イギリス・フランス・ドイツ・アメリカのライジング指揮者たち、世界の主要オーケストラ・歌劇場シエフ・リスト付き

インタビュー&会見記録

池辺晋一郎

エディタ・グルベローヴァ

イリヤ・イーティン 藤井一興

川越塔子 砂川涼子 村上敏明

特別企画

2013年に来日する演奏家たち

〈巻末来日演奏家一覧付〉

カラー口絵

日生劇場オペラ「メデア」

ウィーン国立歌劇場「アンナ・ボレーナ」

関西歌劇団「ホツペアの戴冠」

関西二期会「ゴシ・ファン・トゥッテ」

トナカイサロンオペラ「イル・トロヴァトーレ」

あらかわバイロイトが初めて本拠地サンパウル荒川を離れ、アブリコに進出。音楽総監督クリスティアン・ハンマー指揮するTIAAフィルハーモニー管弦楽団の演奏により、R・シュトラウスとワーグナーのオペラの抜粋版が採り上げられた（合唱・あらかわオペラシンガーズ、荒川タウン合唱団他）。

まず前半は「影のない女」より三つのシーン。1幕1場と3幕から冒頭とフィナーレが演奏されたが、これは2014年のシュトラウス生誕150年に合わせ、全曲上演するための試演らしく、初日は乳母役の小畑朱実、皇后の北村さおり、バラクの妻の蔵野蘭子など実力派歌手が揃い。バラクも田辺とおるが好演した。2日目も皇后の山本真由美をはじめ、遜色のない名演を展開。

後半の「タンホイザー」第2幕もワーグナー生誕200年の4月に全曲を舞台上演するためのイベントか。これも初日はタンホイザーに

角田和弘、エリーザベトには福田玲子と役者が揃い、ヴォルフラムは田辺で締める。

どちらも2日目は升島唯博ら東京国際声楽コンクールの入選入賞者が多数出演したが、彼らは既に内外のオペラ界で活躍し始めているようで今後が愉しみ。特筆すべきは狭いピットから抜け出したオーケストラの存在感だろう。少人数ながら音に厚みもあり、ハンマーの薫陶よろしきを得てますます磨きがかかって来た。どちらも本番の全曲上演が待ち遠しい。（10月24 & 25日、太田区民ホールアブリコ大ホール）

（浅岡弘和）



「タンホイザー」(の長澤園子)